

第6工学系

建設工学系より

学内近況報告

建設工学系 三宅 醇

現在の系長は渡邊昭彦教授，系長補佐は加藤史郎教授，就職担当は本間宏教授，教務担当は河邑眞教授が勤めておられます。また昨年新設された工学教育国際協力センター（ICCEED）のセンター長を中村俊六教授が兼任しておられます。昨年は，系内の人事が随分と多かったですのですが，今年は僅かで大屋誠先生が松江高専へ帰られた（工博も取得）程度です。長く系内事務をとってくれた小柳津武さんが，岡崎の分子研へ行き，代わって柴田珠子さんが来てくれています。

昨年は，豊橋技術科学大学創設25周年ということで，記念シンポジウムが行われました（11月23日，商工会議所）。今後の日本経済・社会・建設業のあり方を巡って，東海総合研究所・水谷研治氏の講演，卒業生・川口良子，須賀敦，溝口久，岩崎義一，若林亮，永柳宏の諸氏のシンポジウム（司会：三宅）が行われました。これに合わせて，卒業生を対象とするアンケート調査のまとめも含んで立派な冊子も作られ，その後の懇親会も盛会でした。

今年に入って，大学をめぐる動きが一段と活発化し，優良大学（専攻科や学科が単位となる）選定，大学統合，独立法人化等の一連のややこしい大改革が進行中です。技科大は今年度から西永領先生を学長とし（技科大の創設時の4人組といわれた中心のキーマンで，東大・名大・名城大等を歴任の上で当大学学長に選出された），困難の時期をチャンスに転じるべく，多様な議論が進行中です。大学統合では，名大との統合が新聞報道されたりしていますが，大学の将来の詳細は今後に掛かっています。

さて，建設不況の中で，就職は一段と大変です。例年よりも建設会社の求人が減り，応募も減って

転出

大屋 誠 助手（平成14年3月末）

現職

[構造大講座]

教授：加藤史郎（系長補佐），角 徹三，河邑 眞
助 教 授：山田聖志，三浦均也，倉本 洋（ICCEED 助教授兼務）

助 手：中澤祥二，中治弘行

技 官：金田隆文

[環境大講座]

教授：北尾高嶺，本間 宏，
中村俊六（ICCEED センター長併任）

助 教 授：松本 博，青木伸一

助 手：山田俊郎

教務職員：山本一伸

技 官：片岡三枝子

[計画大講座]

教授：三宅 醇，渡邊昭彦（系長），廣島康裕

助 教 授：大貝 彰，加藤彰一，泉田英雄

助 手：谷 武，細田智久

教務職員：金 広文

事 務：柴田珠子

いるようです。就職が学系として纏めて行っていた時代から，メールによって学生が個々人で応募する形へと急速なシフトがあります。いずれにせよ，従来型の建設系企業の今後はそんなに明るくなく，多様な就職先の開拓が必要となるでしょう。卒業生諸君の仕事も安定的とはいいい難く，得意技を生かす工夫が従来以上に必要な，きつい時代になってきました。同窓会の存在が多様に問われる時代になったと思いますが，わが建設系の同窓会は独自に名簿・会報を持っていて，この強みを生かして頂きたいと切望します。

新任教官より

着任のご挨拶

建設工学系助教授 三 浦 均 也

昨年10月に建設工学系の助教授として着任いたしました。生まれも育ちも北海道で、北海道大学では博士課程まで学生として過ごし、その後15年間勤務しました。その間、カナダ・ブリティッシュコロンビア大学と、タイ王国・アジア工科大学で合わせて3年ほど教鞭をとりました。研究分野は地盤工学・応用力学です。各種構造物・基礎の耐震性能や地盤の地下水浸透流・熱流・変形現象に関するテーマを持っています。地震などによる被害や現象の現地実態調査と実験、解析をバランスよくこなすことを常々心がけています。これまでの経験を生かして教育・研究に努力いたしますので、よろしく願いいたします。



建設工学同窓会収支報告

建設工学同窓会幹事長 谷 武 (13期生)

建設工学同窓会幹事長の谷です。平成13年9月1日から1年間の収支決算を、下記の通りご報告いたします。建設工学同窓会の収入は、全学同窓会からの分配金と建設工学同窓会名簿売上金から成り立っており、この1年間は主に全学同窓会報の発送作業代及び郵送代として支出しました。また、昨年の11月23日に開催された建設工学系25周年記念シンポジウムに対して、同窓会からも開催費の援助を行いました。

平成13年9月1日から平成14年9月1日までの建設工学同窓会の収支決算

名 目	金 額
残 金	
平成13年9月1日現在	964,483
収入の部	
全学同窓会からの分配金	270,180
建設工学同窓会名簿売上金	22,500
普通預金利息	28
小 計	292,708
支出の部	
建設工学系25周年記念シンポジウムへの援助	50,000
図書カード代(同窓会報原稿執筆の謝礼7人分)	14,000
建設工学同窓会名簿データ変更作業代	15,000
建設工学同窓会名簿郵送代	790
全学同窓会報の発送作業代・郵送代	267,200
雑費(ラベルシート代、糊・ハケ代、領収書代)	4,179
小 計	351,169
残 金	
平成14年9月1日現在	906,022

研究室だより

加藤研究室の近況

加藤研究室修士課程2年 渥美文美子

卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか？

加藤研究室は現在、博士課程2名、修士課程5名、学部2名、外国人研究員1名の計10名で加藤史郎先生、中澤祥二先生のもと日々研究に励んでいます。現在取り組んでいる研究テーマは、ラチスドーム等の座屈設計法、空間構造物の耐震性に関する研究、鉄塔の耐震補強に関する研究、粘性ダンパーの開発と構造物への適用に関する研究、鉄筋コンクリートシェルの耐力に関する研究、木造住宅の耐震性の評価に関する研究などです。各個人が先生方の指導のもと各テーマに取り組む一方、食事のあとの廊下での談笑の際に意見の交換をしたりと研究室全体が一致団結し日々、研究・勉学に励んでいます。

昨年は、大屋先生が1年間、技術開発センターの助手としておみえになりました。ゼミへの参加や研究等についてのアドバイスをいただきました。その一方で、大屋先生、中澤先生の学生時代の加藤研究室の様子なども伺うことができ、改めて加藤研究室の先輩方のご

活躍ぶりには感心いたしました。

皆様、お忙しいとは思いますが、近くにお越しの際にはお立ち寄りください。その際には、まだまだ未熟な私達にご指導をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様の更なるご活躍とご健康をお祈りしております。



泉田研究室の近況

泉田研究室修士課程1年 西山理沙

卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか？きっとお元気で活躍しておられることと存じます。では、泉田研究室の近況報告をさせていただきます。現在、泉田研究室は学部3名、修士5名（内留学生3名）、博士1名の計9名で構成されています。10月からは博士課程に新たに留学生が1名加わり10名となる予定です。

メンバーそれぞれが日々各々の研究に取り組み、勉学に励んでいます。留学生が多いせいか海外の建設史をテーマとする人がほとんどです。言語の違いなど大変なことも多いですが、みながんばって調査・研究を行っています。

さてこの夏、泉田先生と研究室生5名でインドネシアへゼミ旅行へ行ってきました。留学生のイスネンさんや他研究室の留学生にガイドしてもらいながら約一週間、スマトラ島のメダン・パダンを車でまわりました。主な目的はインドネシアのこの地方の伝統的な家屋を見ることで様々な集落を訪れましたが、その他にもその土地の名物料理や日本にはないフルーツを食べたりと、日本にいるだけでは決して味わえない貴重な経験をしました。しかし楽しいことばかりではなく、言葉の壁や、家や仕事の無い人々が「お金を下さい。」と言って近づいてくることは私にとって、大きなカルチャーショックとなりました。事前に読んだ本

やテレビなどでは知っていましたが、やはり実際に会ってみると非常に衝撃的で、最初は恐怖を、後からは悲しみを覚えました。何事も触れてみなければ分からない、そのことが強く身にしみた旅となりました。

旅行時だけでなく日常的に言葉の壁があるため、留学生は日本語を、日本人学生は英語を日々勉強しております。まだまだその壁はなくなりませんが、これからも頑張っていこうと思います。こんな私たちですが、いつでも待っていますので、卒業生の皆様、お近くにお越しの際には是非お立ち寄り下さい。



建設工学系 25 周年記念シンポジウムのご報告

建設工学系助手 細 田 智 久 (18 期)

1976年以来の建設工学系設立25周年を記念し、昨年11月23日(祝)に建設工学系・建設工学同窓会の共催としてシンポジウムを豊橋商工会議所にて開催いたしました。当日には、教職員等37名、同窓生64名、在校生57名の計158名の方々にご参加いただきました。そこで簡単ですが、以下にシンポジウムで行われた内容をご報告します。

1. 特別講演「あなたは21世紀をどう生きるか～低成長下の建設業の中で～」

特別講演者として水谷研治先生(前東海総研理事長, 現中京大学教授)をお招きし, エコノミストの視点から, バブル経済以降の右肩下がりの時代になった理由と今後の見通しをご講演いただきました。ご講演の中では, 国庫の財政赤字を削減するため, 少子高齢化が進展する前の国力に耐力のある段階での増税の必要性, 国民全体の生活水準を2段階下げることへの覚悟, 建設業界の価格破壊の進展と世界レベルでの淘汰の時代の到来などを熱く語っていただきました。

2. パネルディスカッション「あなたの誇れる技術は何か～21世紀に求められる技術者像～」

パネラーとして様々な分野でご活躍されている同窓生6名(1期:川口良子氏・須賀敦氏, 2期:溝口久氏・岩崎義一氏, 4期:若林亮氏, 6期:永柳宏氏)をお招きし, 学生時代の思い出, 現在までの職歴とこれからの仕事の見通し, それぞれの分野で必要とされる人物像などをお話いただきました。就職後のユニークな経験談も交えながらお話いただき, 特に在校生にとって貴重な時間となったようです。

3. 意見交換会など

シンポジウム後の懇親会では, 紺野名誉教授の挨拶・乾杯の後に各参加者が思い思いに輪を作り談笑いたしました。その後, 各研究室単位で2次会が開かれたところも多く, 今回のシンポジウムを機に同窓生の縦のつながりを強めることができたかと確信しております。



1. 特別講演者 水谷研治先生



2. パネルディスカッションの様子



3. 意見交換会の様子